

財政演説(平成 27 年度補正予算)に対する代表質問

平成 28 年 1 月 6 日(水) 13:00～本会議

衆議院議員 松本 純

〈はじめに〉

私は自由民主党政務調査会長代理の松本純です。自由民主党を代表して、政府の財政演説に対して質問いたします。

質問に入る前に、安倍総理の外交報告を拝聴いたし、一言申し上げたいと思います。

総理は就任以来「地球儀を俯瞰する外交」を積極的に推進され、訪問国は地域を含め、のべ 86 か国、飛行距離にして地球 19.47 周と、歴代総理の中でも抜きん出ています。昨年の通常国会終了後も、年末にかけて精力的に外交に注力され、とりわけ 3 年ぶりとなる日中韓サミットの開催は中国・韓国との関係改善を印象づけるものでありました。その後の慰安婦問題に関しての韓国との合意は、日韓両国の新たなスタートとなることでしょう。わずか 3 ヶ月の間に、中身の濃い外交活動をしてこられた総理に改めて敬意を表します。

本年は、わが国において G7 伊勢志摩サミットが開催されます。各国の指導者が一堂に会するこの機会に、“積極的平和外交”を前面に打ち出して、安倍総理のリーダーシップを如何なく発揮していただきたいと思います。

さて、平成 24 年 12 月、再び安倍内閣が発足して、まる三年が経過しました。この間、大胆な金融政策と機動的な財政政策、そして民間投資を喚起する成長戦略、所謂「3本の矢」を次々と放ち我々は経済政策を最優先するアベノミクスを強力に推進してきました。

その結果、実質 GDP は、2012 年 10～12 月期と比べ、昨年 7～9 月期には 12.4 兆円増加し、有効求人倍率も 1.24 倍と 23 年ぶりの高水準である等多くの数値が改善し、税収も過去最大、1991 年度以来 25 年ぶりの高水準となる見込みであり、デフレ脱却までもう一息のところまでできました。しかし、我々はこの結果に安住しているわけにはいきません。

## 〈一億総活躍社会〉

昨年9月、安倍総理は、自由民主党総裁に再選され、その直後の記者会見において、「30年、40年、そして50年先を見据えながら私たちの子や孫の世代のために新たな国づくりを進めていく。『一億総活躍』の時代を切り開くためこれからの3年間全身全霊を傾注する。」と高らかに宣言されました。安倍総理の強い覚悟を私は今でも鮮明に覚えています。

総理の目指す「一億総活躍社会」とは、どんな社会なのでしょう。今なぜ目指す必要があるのでしょうか。私は、第二ステージに入ったアベノミクスを本当に成功させるために、わが国に潜む根本問題を解決しなければならないからだと理解しています。経済社会を支える働き手が必ず減少していくという根本的問題である「少子高齢化」、この問題を解決しない限り、経済再生への道は必ず行き詰まってしまいます。

そこで、“新三本の矢”が必要となるわけです。従来の三本の矢を束ねてさらに強力な“新第1の矢”として放ち「希望を生み出す強い経済」を目指すこととし、それに加えて、“新第2の矢”で希望出生率1.8の実現をめざし、“新第3の矢”で介護離職者をゼロにするという具体的な目標を打ち立てました。

新しい第2・第3の矢で、子育てや介護の心配が解消され、仕事との両立がしやすくなることによって、誰もが働くことが可能となり、NPO等、様々な社会活動に参加することも可能となります。これによって、消費の底上げや投資の拡大が促され、経済の好循環がより一層高まっていくこととなります。この経済の好循環による果実を社会保障に配分していく。このような「成長と分配の好循環」を創っていくことが必要不可欠であると考えます。「一億総活躍社会」とは、そのようなことを可能とする社会であって、国民の一人ひとりの個性と多様性が尊重され、家庭で、職場で、地域でそれぞれが生きがいを感じる事ができる社会であると考えています。

私はこのように理解する訳ですが、国民の方々に十分理解が行き届いていないのではな

いかという懸念があります。総理のおっしゃる「一億総活躍社会」とはどんな社会をめざすのか、改めて総理の言葉で国民の皆さんに分かりやすくご説明いただきたいと思います。

(☞安倍総理)

特に、一億総活躍のカギを握る第2の矢である「希望出生率1.8」の実現についてお伺いいたします。急激な人口減少は、わが国の経済社会に、様々な形で深刻な影響をもたらすことになり、「希望出生率1.8」の実現という明確な目標を掲げられたことは大変意義あることと考えますが、非常にハードルが高い目標であろうかとも思います。この目標の実現に向け、どのように取り組んで行かれるのか、総理のお考えをお伺いいたします。

(☞安倍総理)

さらに、第3の矢である「介護離職ゼロ」についてお伺いいたします。

わが国のような超高齢化社会においては、誰でも親の介護をしなければならなくなる可能性があり、働き盛りの時期と重なる場合も多くあります。介護と仕事の両立を図ることができる環境を整備し、希望に応じて仕事を続けられるようにすることは、まさに「一億総活躍」のために重要であり、正鵠を射たものと考えます。国民の皆さんの介護問題への関心、政府の取り組みへの期待は非常に高いと実感しています。そこで、「介護離職ゼロ」に向けて、具体的にどのように取り組んでいかれるのか、総理のお考えを伺います。(☞安倍総理)

具体的に低所得の高齢者への臨時給付金についてお伺いします。GDPの6割を占める消費の回復が遅れていることは、わが国経済にとって由々しき問題です。なかでも職業に就いていない無職世帯の消費支出が低迷していることが調査で明らかとなっています。勤労者世帯は、2年連続の賃上げ等により、アベノミクスの恩恵を受けています。しかし、

年金だけで生活されている高齢者の方々は、賃上げの恩恵を受けることができず、その負担感によって財布の紐がきつくなっているものと思われ、消費が伸びないのも当然です。そのような方々への支援は確かに必要だと思います。

しかし一方で、高齢者優遇ではないのか等、疑問の声も上がっていることも事実です。わが党の議論でも、財政再建への配慮が足りないのではないか、給付後に効果をしっかりと検証すべきではないか等、若手議員から様々な意見がありました。皆さんの理解を得るためには、給付に一工夫が必要かもしれません。給付の対象となる高齢者の方々は、正式な職に就くことは難しいかもしれませんが、地域のボランティア的な活動は可能だと思います。給付する際、単に給付するのではなく地域活動の紹介・マッチングを行うなど、一工夫することが必要ではないでしょうか。そうすれば一億総活躍の一助にもなり、若者からも理解が進むのではないのでしょうか。この臨時給付金については、総理の強い思い入れがあるとも伺っています。改めて、低所得の高齢者への臨時給付金を行う意義について総理のお考えを分かりやすくご説明いただきたいと思います。(☞安倍総理)

さて、今回の補正予算は、第2の矢「希望出生率1.8」の実現と第3の矢「介護離職ゼロ」に焦点が当たったため、従来の三本の矢「大胆な金融政策と機動的な財政政策そして民間投資を喚起する成長戦略」はどこに行ってしまったのかとのご意見をよく耳にします。これらは“新第1本の矢”に結束されているのですが、私は、強い経済をつくる“新第1の矢”は、「成長と分配の好循環」を構築する前提とも言えるものだと考えています。

足元の経済状況を見ると、7~9月期の実質GDP成長率はプラスに転じ、2四半期連続のマイナスは回避できたものの設備投資が企業収益の伸びに比べて弱い状況となっています。また、個人消費の回復テンポも遅れが見られる等、地方によっては未だに厳しい経済環境にあります。このため引き続き機動的な財政運営が必要であるとの声も強く、名目GDP600兆円を目指す“新第1の矢”への期待も大きいものがあると認識しております。そこで、“新第1の矢”によって、如何にして「希望を生み出す強い経済」を創っていくの

か、具体的な目標値である名目GDP600兆円をどのようにして達成するのか、総理の  
考えをお伺いいたします。(☞安倍総理)

〈TPP〉

次に、TPPについてお伺いいたします。

昨年アトランタでの閣僚会合において、TPP交渉が大筋合意に至りました。安倍総理  
が「国家百年の計」として決断され、平成25年7月に交渉に正式参加して以来、甘利大臣  
は各国と国益をかけた厳しい交渉を積み重ねてこられたものと承知しています。アベノミ  
クスの「成長戦略の切り札」と位置付けられるTPPが、わが国にとって、どのような意  
義を持つのか、交渉の司令塔として、命がけで交渉に臨んでこられた甘利大臣に、改めて  
お伺いいたします。(☞甘利経済再生担当大臣)

TPP協定は農産品や自動車の関税だけを扱うものではなく、それだけでメリットを計  
ることは適切ではないと考えます。非関税措置の削減・撤廃や、投資・サービスの自由化  
等、さまざまな分野において経済効果をもたらすことが期待されています。政府は昨年末  
にTPP協定の経済効果の分析結果を公表していますが、改めて、甘利大臣からTPPの  
もたらす経済効果を分かりやすくご説明願います。(☞甘利経済再生担当大臣)

TPPの大筋合意によって、わが国の農林水産業は「農政新時代」とも言うべき新たな  
ステージを迎えました。政府与党一体となって、TPPの影響に対する農家の方々の不安  
を払拭するとともに、夢と希望の持てる「農政新時代」を創造し、努力が報われる農林水  
産業を実現する必要があります。そこで、農林水産大臣に農家の皆さんの不安を払拭する  
とともに「農政新時代」を創造するために、どのような政策を進めていくことが、必要で  
あるとお考えなのか、また、具体的に、補正予算にどのような施策を盛り込んだのか、ご

説明をお願いいたします。(☞森山農林大臣)

#### 〈財政健全化〉

さて、我々は、これまで経済再生に全力を傾注してきましたが、同時に、財政再建も着実に推進してきました。来年度は、「経済・財政再生計画」の初年度に当たるため、引き続き「経済再生と財政健全化の両立」を目指していく決意です。今回の消費税の軽減税率の議論においても、我々は財源問題を重視し、一年かけて財源を確保することとしました。将来の子供たちにツケを残してはいけません。そこで、「財政健全化は必ず、やり遂げる」との麻生財務大臣の強い決意表明をお願いいたします。(☞麻生財務大臣)

#### 〈最後に〉

わが党の新しいポスターが、いま全国で張り出されています。そのポスターには、「経済で、結果を出す。」とのコピーで、総理の並々ならぬ決意が表わされており、全ては、この言葉に集約されているように思われます。最後に、総理の「経済再生」に対する決意を改めてお伺いし、私の質問を終わりたいと思います。(☞安倍総理)

ご清聴ありがとうございました。